ly of the desire of you will be able to do.

ユズポン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｗｈａｔ ｏｎｌｙ ｏｆ ｔｈｅ ｄｅｓｉｒｅ ｏｆ ｙｏｕ ｗｉｌｌ ｂｅ ａｂｌｅ ｔｏ ｄｏ.

【Ｎコード】
Ｎ４９１４Ｊ

【作者名】
ユズポン

【あらすじ】
（題名変えました。）
俺、工藤新一は、国民的アイドルグループ、ＳＰＥＥＤの一人だ。ボーカル担当。
（新一オンチ要素抜いてます。）
ある日、記憶を失った幼なじみ歌手と共演する事になってーーーー！？
（Ｎａｉｔｕさん、ＤＡＩＧＯさん、愛内里奈さんファンの方は、

ｂａｋをお勧めします）

00　SPEED（前書き）

新一の探偵、オンチ要素抜いてます。

00　SPEED

？？？君を想うだけの僕に、何が出来るだろう。

何もできない、僕に。

君の傍にいる資格など、無い。

俺は工藤新一。ただの高校生だ。
日常的にちゃんと過ごしていたし、それはそれで満足していた。
そんな俺には、ちょっとした秘密がある。
周りには、ちょっとした秘密じゃねーよと突っ込まれる。
ーー俺の正体。
「よお工藤、今日もスケジュールぎょーさん詰まっとるでー」
そう軽快に大阪弁で話かけて来た奴。
俺の秘密を唯一知ってる奴だ。
「ちょっっ！！あんまり大声で叫ぶなよ！！俺達の正体ばれたら、どうなるか？？？」
「あー、せや。何たって俺らはあの国民的人気を誇るアイドルグループ、ＳＰＥＥＤ（スピード）やんなぁ」
「お前？？？懲りてねーだろ。」
そいつを睨み付け、溜め息を吐き出す。こいつにはよくある事だ。
「で、迎えは？服部」
ちなみにこいつの名前は服部平次。
そう。俺達は国民的アイドルグループ、その名もＳＰＥＥＤ。
「あっちやで！」
服部に強制的に連れられ、俺は緩まったサングラスを直す。
迎えの車に乗り、今日も仕事に繰り出す。

「今日は、ある方との共演があります。」
マネージャーの高木さんが、手帳を手に話し始める。
「その方はーーーー」
「歌手の、毛利蘭さんです。」

最も会いたくない人物。
彼女は俺の幼なじみで、数年前に彼女はーー

事故に遭って、記憶を失った。

00　SPEED（後書き）

What only of the desire of you will be able to do. の意味は、君を想うだけの僕に、何が出来るだろう。です。

01　君を見るのは舞台ごし（前書き）

短いです？？？

01　君を見るのは舞台ごし

そして俺達を乗せた車は、収録が行われるスタジオの駐車場に入った。
「工藤、行くで」
「ああ」
そして車は止まり、俺と服部は覚悟し外に出る。
「きゃー！ＳＰＥＥＤよー！！」
俺達が覚悟していたのは、毎回必ずいる女性ファンの軍団だ。いちいち対応していると収録時間に間に合わないので、俺達は数人と対応、残りは後でとあしらいスタジオに入る。
？？？よくある事だ。

控え室に入り、高木さんが出てった後、俺達は服を着替えた。
「それにしてもあの蘭ちゃんと共演なんてなぁ」
ふと、服部が口を開き、言った。
「？？？まあ予想はしてたけど」
蘭とはここ数年会っていない。会っても混乱させるだけだし、今は互いの関係を隠していた。
今回の収録は、歌番組。
「では、次は毛利蘭さんで、「ＭＡＧＩＣ」です。」
蘭の澄んだ歌声が響く。
「ー君の言葉一つで救われたんだー」
俺たちは舞台袖で待機していた。
こんな所でしか、君の姿が見えない。
「ー魔法が解けて無くなってしまわないようにー」
そして、蘭の歌は終わった。
「では、次はＳＰＥＥＤさん「Ｅｖｅｒｌａｓｔｉｎｇ　Ｌｕｖ」です！！」

俺達が出る。
そして曲が始まり、俺は口を開いた。

こんなにもそばにいるのに
ぼくの思い届かなくて
時計の針は巻き戻せない
共に見たあの景色を忘れてしまわないように
記憶のパズルを集めて
透明な君の瞳
映る姿　あの頃の僕じゃないけれど
Ｅｖｅｒｌａｓｔｉｎｇ　Ｌｕｖ
迷宮のように巡る世界で
変わらない思いを君に
Ｅｖｅｒｌａｓｔｉｎｇ　Ｌｕｖ
今はまだ言えないけれど
君だけをアイシテル
一度だけ願いが叶うなら
帰りたい君の隣に
Ｅｖｅｒｌａｓｔｉｎｇ　Ｌｕｖ
全ての謎を解き明かしたら　君と
ずっといられるように
繋いだその手を離さないから
夢の中で君に囁いた
いつかかならず迎えに行くよ
Ｅｖｅｒｌａｓｔｉｎｇ　Ｌｕｖ

収録が終わり、自宅へ帰った俺は、ベッドに倒れこむと同時に深い
眠りに落ちていたーーーー
そして、昔の、つらく悲しい夢を見たーーー

０１　君を見るのは舞台ごし（後書き）

次回は話ではなく新一の夢、蘭が記憶を失うまでの話です。

02　悲しい決断。〜夢〜

その日はーーーーとても澄んだ青空だった。

「新一〜？起きてよ、朝！！学校遅れる！！」
いつもの朝だった。青の制服を身に付けた蘭が、俺の部屋に入り、そう声を上げる。
「？？？って、マジ！？あーヤバい！！昨日収録あって遅かったからなー」
「もう。一応アイドルだからって、そんな生活じゃ体壊すよ？」
思えばこの時、もっと早く起きていれば？？？あんな事は、起こらなかったんだと思う。

「ほら、急げって！！」

「何よ！！新一が寝坊するのが悪いんでしょ！？ずっと大声上げた私の身にもなってよねー！！」
いつものように口喧嘩を交わしつつ、俺達は横断歩道が律儀に青になるのを確認し、走り出した。
しかしーーーーーー
キキーーーーーーーーーーーーー！！！！！
激しいブレーキ音とともに、信号無視した俺達の体の何倍も大きいトラックが、突っ込んで来た。
そうーーーーーー。蘭に向かって。
ドンッ！！
何かがぶつかった音と共に、道路上に鮮血が舞った。

「っ？？？蘭っ！！らぁーーーーん！！！！」
俺達はこの時、大切なモノを失ったんだーーーー

「先生、蘭の様子は？？」
米花総合病院。あの後誰かが呼んでくれたのか、救急車が来た。
救急車で運ばれる、意識の無い蘭を前に、俺は震える声、手でおっちゃんとおばさんに電話をかけた。
病院に着き、手術が始まる。

5時間ぐらいたっていたと思う。
おっちゃんとおばさんが既に来ていたが、何も言わなかった。
そしてランプが消え、医者が出てきた。
俺は言った。
「先生？？？蘭の様子は？」
仕事先に休むとメールをし、恐る恐る聞く。
「新一ーーーーー」
笑顔で俺の名前を呼ぶ、幼なじみの声が脳裏に響く。
「もう命に別状は無いでしょう、しかし？？？」
「？？？？」
「彼女は？？？記憶を失っている可能性があります。」
「え？？？」
「可能性だけです。どうか、彼女のそばから離れないであげて下さい。」
そして医者は去っていった。

夜・・・

俺は、ずっと病院にいた。おっちゃんやおばさんも、今日は泊まるつもりらしい。
俺達が今いるのは、５０４号室、蘭が傍らで眠り続けている病室だった。
「？？？」
ふと、蘭のきれいな瞳が見えた。
「蘭？？？！！」
「気がついたか！！」
「？？？誰？」
「？？？」
「お父さん、お母さん、アナタは誰？？？？」
病室は、静寂に包まれた。

「どうやら蘭さんは、部分的に記憶を失っているようですね？？？」
医者の言葉を聞かず、俺は病室を飛び出た。

蘭が俺を、覚えてない？？？？
ランノキオクノナカニ、オレハイナイ。

「新一君！！」
ふと、俺の後ろから声がかかった。
蘭の母さん、妃英理さんだ。
「ごめんね？？？蘭、新一君を思い出せないみたいで？？？」
「？？？おばさん。」
俺は決心したように言った。
「？？？何？」
「？？？俺はっ？？？蘭の前からいなくなります？？？
」
しばらくの沈黙が流れる。
「？？？っ駄目よ！！これから、蘭はあなたの事も思いだすわ！！

それから？？？」
「会っても？？？混乱させるだけだと思います。だから、今は、蘭の前に俺はいないほうがいいんです」
「？？？」
「じゃあ、さよなら、おばさん？？？！！」

俺は、その場所を去った。
悲しくて、悲しくて、悲しくてーーーー
ただ走り続ける事しか出来なかった。
涙を散らし、ただ、がむしゃらに。
自宅に着いた頃には、声が枯れてしまい、頬には涙の後が残った。

その日から一週間、俺は休業していた。
今思えば、俺は、とてつもなく悲しい決断をしたんだーーーーーー

０２　悲しい決断。～夢～（後書き）

とてつもなく悲しい話になってしまった？？？
暗ッッッッ（。∞。）↑アザラシ（笑）
新一君可哀想すぎます！！自分で。
最後はとびっきりのハッピーエンドにしないとなあ？？？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4914j/

What only of the desire of you will be able to do.

2011年9月24日08時05分発行